

〔実施事業〕 2018 信州総文祭自然科学部門 研究発表

〔日 時〕 2018年8月7日（火）～8月9日（木）

〔実施場所〕 公立諏訪東京理科大学

〔参加生徒〕 3学年 男子 2名 女子 0名 計 2名

〔引率者〕 渡邊秀謙

【事業のねらい】

全国高等学校総合文化祭は、昭和52年から毎年開催されており、全国から集まった各都道府県を代表する高校生が自然科学、産業、芸術など様々な部門において、その成果を披露する文化の祭典である。全国的な規模での発表を通して文化活動の興味・関心を一層喚起するとともに、生徒間の交流・親睦を深めることを目的としている。

【研究要旨 内容】

【参加による生徒の成長 等】

今年の全国高等学校総合文化祭は長野県を舞台に開催され、諏訪東京理科大で行われた自然科学部門に本校からは「飯山市の地震防災を考える」というテーマで研究してきたグループが発表を行った。全国から集まった生徒たち、審査員の先生方を前にしての発表であったが終始落ち着いた雰囲気の中で堂々とした発表であった。自分たちの暮らす飯山市の地震防災を考え、独自のハザードマップの作製に取り組んだ本研究は審査員の先生方からも好感を持っていただき、これまでの研究に対して充実感を感じるとともに、今後より精度の高いものにしようとする姿勢が見られた。

また、他県交流の場では「長野県クイズ in 総文祭」が行われ、他県の生徒に対して長野県の方言を教えるなど、積極的にコミュニケーションを取る場面が見られた。



